

レースの裏側に迫る!

SUPER FORMULA キーマンインタビュー

トラックエンジニア (#64)

おかだ じゅん
岡田 淳

茨城県出身 / 2018年入社
メカニックからの叩き上げで経験豊富なエンジニア。



トラックエンジニア (#65 / SGT)

かとう ゆうき
加藤 祐樹

埼玉県出身 / 2014年入社
レースに懸ける情熱は人一倍。もはやその姿は変態の領域。



レースの裏側には、エンジニアやメカニックといったプロフェッショナルの存在が欠かせません。レーシングカーが0.1秒でも速く走るように、彼らは日々奮闘しているのです。そこで今回は、SUPER FORMULAのキーマン4人のインタビューを通じて、エンジニアやメカニックの仕事に迫り、その重要性や魅力についてみなさんにご紹介したいと思います!

チーフメカニック (#64)

やまだ よしたか
山田好崇

静岡県出身 / 2016年入社
最年長メカニックとしてチームを牽引する存在。



チーフメカニック (#65)

みね おありのり
峯尾有徳

茨城県出身 / 2015年入社
日々寡黙にマシンと向き合う姿が印象的。



エンジニアは、ドライバーの意見を取り入れ、車両データを詳細に分析しながら車のセットアップを最適化します。メカニックに指示を出し、レース戦略を練り、タイヤの使い方を管理するなど、車両全体を統括しています。このように、エンジニアはチームの中で重要な役割を果たしており、車の性能向上に努めています。

レースの醍醐味は、努力の結果がすぐに現れるところです。エンジニアとして、自分の考えが正しかったと確認できた瞬間や、準備してきたものが速さに繋がる瞬間は非常に嬉しいものです。私たちは、速いクルマを作るために日々努力しています。クルマの速さを生み出すための細かい調整や工夫にも注目していただきたいです。エンジニアとしての役割は多岐にわたり、その一つ一つがチームの成功に繋がっています。レースでその成果を見届けてください。

トラックエンジニアは、担当するマシンを、どんな風に仕立て、走らせるかを考え、実行する役割です。車両のセットアップや走行プラン、レース戦略を考え、メカニックの皆さんやドライバーに指示を出します。

レースに勝つため、エンジニア全員で走行データの分析から得た知見や、車両の諸元から性能を最大限に引き出す理論を追求し、マシンの設定や走行プランを作り上げます。しかし、理論で判る事は一握りです。それはデータからは解明できない事が多いという事に加え、人間がドライビングしている、という要素も大きく関係してきます。パフォーマンスエンジニアは主に理論・研究・分析を行い、トラックエンジニアはそれらの要素を元に、判らない事もひっくるめて勝つための決断を下します。NAKAJIMA RACINGは、理論や分析を蓄積しながら、階段状にレベルアップを続ける事を重視しています。全てがスムーズに回り、ライバルより成長速度が上回って初めて勝つ事が出来るのです。

毎月という頻度でレースが開催されるので、努力して準備した事が直ぐに結果として現れるという部分にはやりがいを感じます。参加するチーム全員が全力で努力している中で、自分達の努力が問われると言うのも醍醐味です。

チーフメカニックの仕事は、担当車両のコンディションをチェックして整備と調整をするのと、ドライバー、エンジニアからの要望に応じて少しでも他車よりも速くなるように、車両を作りあげることです。

レースの仕事はイレギュラーな対応にせまられる場面が多く、仕事時間が不規則になりがちで、プライベートに時間をさけないことがあります。苦勞する部分が多い分、勝った時の喜びが大きいところが魅力的です。

サーキットでは、ピットワークにおけるメカニックたちのムダのない俊敏な動き、テキパキと進む作業なども見て頂きたいと思います。



2009年にロイック・デュバル選手とチャンピオン獲得!

チーフメカニックの主な仕事は、車両の状況把握、及び整備です。また、担当車の仕事の分担、配置等の指示など、チームメンバーを束ねる役割でもあります。

モータースポーツは、勝つために少しでも車を速くしようと考えている人達がチームとなって、他のチームと競いあい、結果として勝敗がでるところが面白いと思います。またやりがいを感じる場所としては、限られた時間、短い時間で様々な状況に対応していかなければならない判断力と技術力が必要で、日々の積み重ねとして培われるところです。

勝利という目的のために、ファクトリーで少しでも軽くしたり、抵抗をなくしたり、摩擦を減らしたり等の思いのもと組み上げられたレースカーをサーキットに持ち込んで走らせています。車の責任者として常に冷静でいられることが望ましいですが、様々な状況によってときに喜びや悲しみ、怒りや焦りなど感情を表す事があります。多くの人がそれぞれの役割をもって仕事をして支えているのがレースであり、ひとつの目的に向かってるが故の喜怒哀楽を感じていただければと思います。